間伐材を再利用した自然風花壇

【講習開催日】令和 5 年 7 月 25 日

【場所】大倉山公園（港北区）

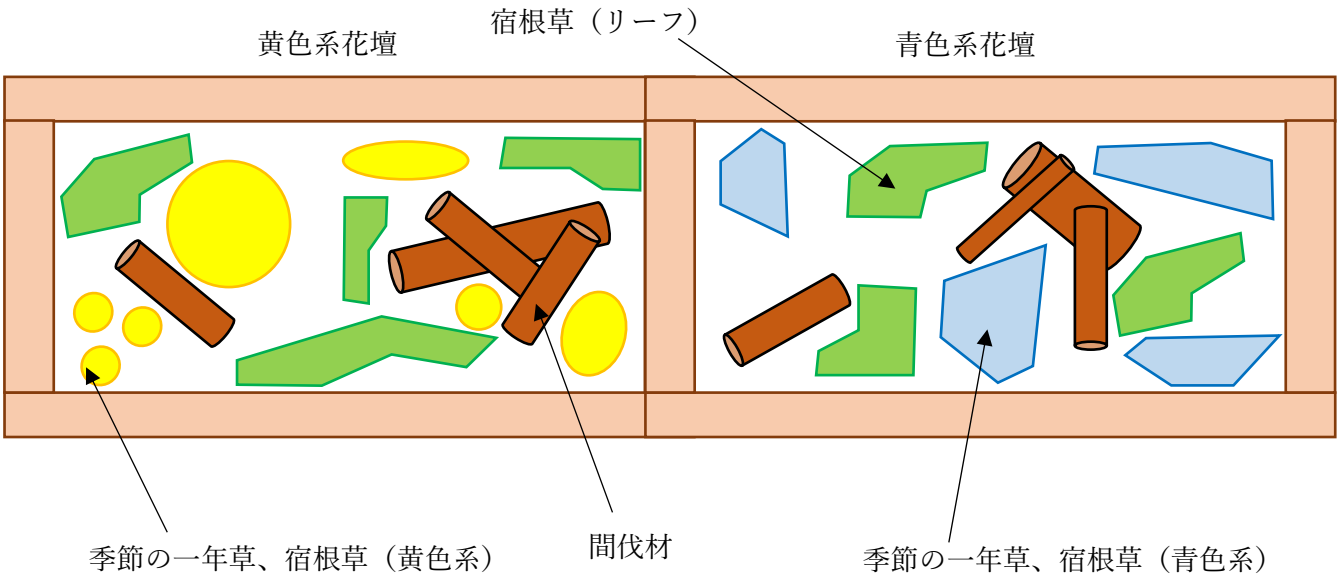
【現状と課題】
・季節の花を楽しむ花壇はあるが、手入れが少なくリーフを楽しめる宿根草花壇が少ない。
・駅から大倉山記念館へつづく急な坂道沿いの花壇。一息つけるような変化が欲しい。
・園内から発生した間伐材があり、再利用できる有効な資源を活かしたい。

【花壇づくりの方針】
・園内から発生した間伐材を利用し、空間にメリハリのある立体的な花壇とする。
・多年草や宿根草を中心とし、季節の花が楽しめる花壇とする。
・園路である坂道の途中休憩場所として、人々に安らぎを与える花壇とする。

【植物を選ぶポイント】
・インパクトのある花が咲く宿根草を植える。
・花が無い時期も楽しめるように、カラーリーフの宿根草を植える。
・爽やかな香りを楽しむこともできるように、ハーブ類を植える。
・同系色の花色を選び、雑多にならないように植える。

【植物を植える時のポイント（配置）】
・間伐材と植物が自然と交わり合うように、配置する。
・等間隔植えにならないよう、まとまりを持たせて植える。

【イメージ】



①講座前
急な坂道の途中にある擬木で造られた花壇。
季節の花苗（一年草）を植えるだけではなく、ローメンテナンスで楽しむこともできる宿根草を取り入れた花壇にしていきます。

②事前準備
園内から発生した間伐材。
上手く組み合わせることで、植物が見え隠れする立体的な花壇を作り、資源の有効活用を図ります。

③植物の説明
準備された植物の名前や特徴の説明を行い、情報を共有しました。（植物の詳細は別紙）

④植物配置と植え込み作業
最初に、間伐材を自由に組み合わせながら配置していきます。人目を惹くルドベキアやエキナセア等を花壇全体のバランスを考えて配置します。その後に宿根草や季節の植物（一年草）をポットのまま配置していきます。
地面に這うグランドカバープランツは、背丈の高くなる植物の株元に配置していきます。

植物は１ポットずつ散りばめるのではなく、同じ種類の植物を２ポットひとかたまりで配置していきましょう。植物のある場所、土のある場所といった空間のメリハリが大切です。

配置が決まったら、植えていきます。
ポットから取り出した時に根が回ってしまっているものは、軽くほぐしてから植え付けましょう。

根鉢が土から出てしまったり（浅植え)、深く植えすぎたりしないように注意します。
植え付ける際には手で株元をしっかりと押さえ、周囲の土も一緒に均していくと、浅植えや深植えに気づくことができます。

⑤水やり
植え付けた直後に、株元へしっかりと水やりをします。
雨のようにシャワーするだけでは土の表面だけが湿っていて地中まで水が浸透していない場合もあります。
時間をかけてじっくりと行いましょう。

⑥完成
間伐材の再利用により、自然風の花壇が完成しました。植物が成長して馴染んでくると、更に良い雰囲気になっていくことでしょう。

■使用植物

黄色系花壇

	エキナセア 花の中心部が球状に盛り上がり、細長い花弁が放射状に広がります。観賞期が長く、切り花やドライフラワーにも使用されます。日当たりと水はけの良い環境を好みます。冬季は地上部が枯れますが、十分な寒さにあてた方が春からの成長が良いです。
	ルドベキア 日当たりと水はけの良い環境を好みます。強く凍らせなければ翌年の初夏から夏にかけて花を咲かせます。花後は次の花茎を伸ばすために早めにカットしましょう。
	ユーフォルビア　　ダイヤモンドフロスト 4 月～11 月頃に白い繊細な小花を次々と咲かせます。花に見える部分は苞（ほう）と呼ばれる花のすぐ下の葉で、本当の花は目立ちません。
	リシマキア　オーレア 耐寒性もあり、半日陰でもよく育ちます。 横に広がって成長するので、グランドカバーに最適です。夏季の蒸れに少し弱いので、風通しの良い場所で育てて下さい。
	マリーゴールド 開花期が長く、春から秋まで楽しめる暑さに強いお花です。お花が咲き終わった茎は、茎元からカットしましょう。そうすることで、次の蕾に栄養を行き届かせて次々とお花を咲かせてくれます。 日当たりが良く、水はけの良い場所で育てて下さい。

	ヒューケラ 常緑性でほとんど手入れは必要ありません。 耐陰性があり、シェードガーデンなどにも活躍します。 カラーバリエーションも豊富で、花壇や寄せ植えにはとても便利な植物です。

青色系花壇

	アガパンサス 清涼感のある花を多数咲かせます。株の大きさ、花の形も様々な品種があります。日当たりと水はけの良い環境を好みます。乾燥にも強く、やせた土地でも育つ丈夫な花です。株分けで増やすことができます。
	ラベンダー ラベンダーメルローという斑入り葉品種です。ラベンダーの中でも耐暑性に優れていますが、真夏は半日陰が適しています。通気性をよくするためにも適宜カットしてあげましょう。
	オレガノ　ケントビューティー 花のように見えるものはホウと呼ばれるもので、そのホウの間から小さな可愛らしいピンクの花が咲きます。冬にバッサリと切り戻しても地中の根は生きているので、春に再び元気に成長します。切った葉はドライフラワーとしても楽しむことができます。
	ローズマリー　這性 地面を這うようにして成長するタイプのローズマリーです。冬に優しいブルーの花を咲かせます。株が大きくなりすぎないよう、適宜カットしてあげましょう。

	エボルブルス（アメリカンブルー） 暑さに強く成育旺盛で、爽やかな青い花を咲かせます。花は枝先に咲くため、切り戻しをして枝数を増やしておくと良いでしょう。半耐寒性ですが、霜に当たると枯れてしまいます。
	ブルーサルビア 原産地では宿根草ですが、耐寒性がないため一年草として扱われます。夏の暑い時期にずっと咲かせていると株が疲れてしまうので、一度半分程度に切り戻すと秋に充実した株になります。
	ヒューケラ ブラックリーフは花壇の引き締め役になります。 常緑性でほとんど手入れは必要ありません。 耐陰性があり、シェードガーデンなどにも活躍します。 カラーバリエーションも豊富で、花壇や寄せ植えにはとても便利な植物です。

	インパチェンス 日陰でも育ちますが、本来は太陽を好みます。春と秋は日当たりと風通しの良い場所で、夏は半日陰を好みます。夏に切り戻して休ませておくと、秋に綺麗に咲いてくれます。咲き終わった花が葉にくっついてしまうと病気の原因になるので、こまめに取り除きましょう。